



ふたなり花粉症・夏

母なる海で母となる

全85枚

・台詞付き 56枚
・絵差分 29枚

・精液ポテ差分 5段階
・受精描写あり





夏！ 海！ 水着！

それ以上でもそれ以下でもない！！

そして、瑞々しく揺れる女体ッ！

おい見ろよ
あの二人の身体！

うおっ!? すごい!
「まんこの擬人化」みてえだ!

そこには昂るオス共の視線を
釘付けにする女体が二つ!



キキッ
キキッ

ちよっとなんなの
この水着...!?
春美 はるみ

おー いいじゃないか
双葉 ふたば 良く似合ってるよ〜

お前が水着忘れるのが
悪いんだからな
今日一日これで寝しめさせるよ

ほとんど隠れて
ないじゃない!
アンタなんでこんな水着
常備してんのよ!

しゅわん
しゅわん

しゅわん
しゅわん




まず目につくのがショート黒髪少女、
地味な黒髪だが、水着が異様で男の目を引き付ける。

連れから「**双葉**」^{ふたば}と呼ばれる少女の名は、成澤双葉（なりさわふたば）。

海に来たものの、水着を忘れ、連れがたまたま持っていた
非常にきわどい**スリングショット**水着を着用している。

布面積の狭いそれは、双葉の大きな乳房にはまるでサイズが合わず、
辛うじて乳首が隠れる程度、ピンクの乳輪はほぼ丸出しである。





そして、もう一人の少女。本来ならこちらの少女の方が目立つ容姿だろう。髪を赤く染め、耳には複数のピアス、一目で遊んでいるタイプだと察する。

女としての肉付きも連れの双葉よりも膨よか。

乳房に関しては双葉がメロンサイズの巨乳ならば、

この少女は堂々とスイカサイズと言いつ張れる爆乳だろう。

その大きさをゆえに水着に収まらないのか、見事にポロリと零れ、ピンクの乳輪とプツクリと膨らんだ乳首が露出している。

連れの双葉から「春美^{はるみ}」と呼ばれる少女の名は、七瀬春美（ななせ はるみ）。

春美のグラマラスな身体つきは、「少女」というのに違和感を覚えるほど。しかし肌の色艶から、まだ成長途中の十代であることが伺え。

なぜか、その身体には似つかわしくないスクール水着を着ている。



てかアンタ何で
スク水なのよ!

期待
着たいからだ!
他に理由あるか?

あーもう!
変なヤツに思われるから
くっつかないでよ!

いいじゃんいいじゃん♪

ってか客観的には
お前の方が変なヤツだぜ?
ほらオス共が見てるぞ♪

どきどき
どきどき

ドキドキ

!?

ドキ

なに「ふたない花粉症」
発症させてんだよ!
いま夏だぞッ!

ええっ! なんで?
どど...どっしろう春美!

ハハハ!
お前!
お前!



「ふたなり花粉症」、それは花粉の飛び交う時期、主に春に発症するアレルギー反応。

発症するのは一部の女性のみ。
発症した女性の身体には、男が裸足で逃げるレベルの巨根と巨玉が形成される。

スギやヒノキが子孫の残すために、花粉という名の精子を撒き散らすように、
ふたなり花粉症を発症させた者は形成された雄しべふたなりチンポから精子を撒き散らすのである。



とんとんデカくなってるぞー！
双葉！ 気を鎮めろ！！
チンコを鎮魂させろ！！

む…無理い…♡ とんとんエッチな
気分になっちゃう…♡ 孕ませたいよあ…
なんで…？ 花粉症の時期じゃないのに…



正確には、花粉とは一年中何らかの花粉が舞ってはいる。単純にスギやヒノキなど春の植物が花粉症の代表と言うだけであり、イネ科やキク科の植物は、むしろ暑い時期に花粉を飛ばす。

だが、今回の双葉の症状は一味違う。

ふたなり花粉症患者は植物の花粉に呼応して、自分も花粉^{精子}を撒き散らす。要は、人間としての生態とともに、植物のような生態も持つ。

植物のように、強い「光」にも特別な反応をしめす者もいるのだ。



真夏のビーチという場、青空から降り注ぐ痛いほどの日差し、砂浜や海面から反射する光。
双葉の身体は、まるで「**光合成**」で**活性化**する**植物**のように、**生殖本能**を**活性化**。
ふたなり花粉症患者という**素養**からか、**女性**でありながら**雄しべ**を**形成**し、
孕むことよりも**孕ませる側**としての**欲望**が**暴走**しつつあった。





は…春美のせいだ…♡

は？

春美がこんなエッチな水着を着せるから…♡

春美がそんなエッチな身体してるのが悪いんだ…♡

は…♡



おい双葉
何すんだ!!?

責任取れえええッ!!
辱めた仕返しだああッ!!

!!!

!!!

ふたなり化した原因が太陽光であることを知らない双葉は、その怒り…というか性欲を春美にぶつける。

すでに双葉は、春先のスギの木のよう

花粉(精子)

に配偶子を撒き散らすことしか考えていない。

先端の鈴口からほとばしるガマン汁も、カウパー液ではなく純度100%の精液。挿入しただけで妊娠確率はかなり高そうである。

春美もまんざらではないのか、双葉の雄しべから香るオス臭に雌しべを濡らし、子育てに備えて母乳をフライングさせている。

成瀬双葉七瀬春美
孕ませたいオスと孕みたいメスという、相思相愛がここに揃った。





おいやめろ離せ!!
みんな見てる!

双葉!? 口調
変わってるぜ!?

春美も母乳とマン汁垂ろして
期待してるくせに!!
ホントはみんなに見られながら
犯されてーんだろオ!?



内なるオスに目覚めた双葉は、華奢な身体からは考えられない馬鹿力を発揮。自分より豊満な身体の春美を抱え上げる。それはまるで「これが俺の子を産むメスだ」と周囲に見せつけるようである。

一方、春美は予想外の双葉の力に抵抗できない。それは力負けか、それとも春美のメスとしての本能が双葉を受け入れさせているのか……。



春美！ 私の子を産めッ！！

おい双葉！
こんなデカフツ
入るわけないだろ！？

光合成により活性化した双葉の雄しべは普段よりも大きかった。双葉の雄しべを啜えなれている春美であっても未知の領域。入るはずがない、裂けてしまう、…と怖れを抱くのは当然である。しかし、そんなものは杞憂であった。







結合する雄しべと雌しべ、まさしく受粉作業。

双葉の脚のようなふたなりチンコが、春美の無毛の恥丘を限界まで拡げ挿入される。

そのあまりの大きさに、春美の腹は内側から子宮が持ち上げられ、元々はくびれ引き締まった腹に浮かび上がる。左右にポコッと飛び出た突起物はおそらく卵巣、本来見えるはずのない胎内の生殖器すら体表に浮かび上がる性行為。

それはセックスというより交尾に近いだろう。快楽目的ではなく、子孫繁栄が目的の正真正銘の子作りである。





おい双葉!
正気に戻れ...!

受粉しゅっ♡

受粉しゅっ♡

クン...クン...クン...
射精してはくせえわはなごころ
ダメなんだよな...

エッ!
エッ!
エッ!

エッ!
エッ!
エッ!







それは、ふたなり花粉症特有の大量射精。
スギやヒノキが撒き散らす花粉量のごとく、大量の精液を射出する。
人間をやめた圧倒的な射精量に、人並みの春美の子宮は
あっと言う間に隅々まで満たされる。
それでもなお注がれ続ける精液に、ついに春美の腹は膨らんでいく。
その様は、海にふさわしいビーチボールのようである。







まずい…身体が…母乳吹いて
完全に子作りモードだ…
これ以上されたら双葉の…

双葉あ…♡ス…
スッキリしたか…

……

ゴムなし、避妊なし、直に生の生殖器同士を結合させ、
ジャムののように濃厚な遺伝子情報の塊を
子宮にこれでもかとブチ込まれた春美。

生殖本能を直接刺激される行為に、
春美の中でもメスが目覚めつつあるのだろう。

ピンク色の乳首からは絶えず子育て用の母乳を垂れ流しにして、
春美の身体は人前でありながら、
双葉の子を孕む母体として役目を果たそうとしていた。





3!

3!

3!

まだまだ終わるわけねえだろ!

妊娠覚悟しろオラァ!!

ニ
ホ!

ニ
ホ!



春美は私の苗床なんだよ！
赤ちゃん相を耕してやるぜーっ！

そろそろキンタマが作付け時期だな！
収穫期に備えて母乳蓄えとけオラア！！



2発目の射精、春美の腹は優に臨月の妊婦サイズを超える。
双葉の射精量は相変わらず。むしろ、増していた。

それもそのはず、口調の変わった彼女は女として生を受けながら、今はオスとしての悦びに満ちている。
メスを己の肉棒でよがらせる悦び、種付けする悦び、孕ませる悦び。その欲望を、極上のメスである七瀬春美で満たしている悦び。

そんな状況に、双葉のふたなりキンタマが暴走しないはずもなく、射精で放出される量に負けないレベルで精液を生成。
確実に春美を孕ませるべく、フルパワーでキンタマを稼働中！







だめだ…私の子宮…
完全に双葉のここと旦那さん
だと考えてる…♡♡♡

卵巣もキーンキーンして…♡
排卵しちゃうのよ…♡♡♡

こんなつやつやキーンホに
進んでるわけないよ…♡♡

春美の中で雌雄は決した。

自分の胎内を蹂躪するオスの遺伝子情報、
圧倒的な力量の差に春美は身も心も敗北を喫した。

しかし、負けたにもかかわらず、解放感と多幸感に包まれていた。

そのとき、春美が無意識にとっていたポーズは、
アへ顔ダブルピースだった。





周囲に見せつけるような盛大な絶頂。
少女とは思えない、濁音混じりの低く響く獣の咆哮のような嬌声。
女がメスの本能に理性を支配された証。

こうなっては周囲に見られることは、もはや恥辱よりも快感。

「自分はこんなに優秀なオスから孕ませてもらえるんだ」という
原始的な承認欲求と自己顕示欲が満たされる。
強いオスの子を孕む。
メスとしての欲望が満たされる姿を見られる快感に春美は浸る。









腕をダランと力なく垂らし、意識はほぼなく、子宮を突かれたときに脊髄反射的に喘ぎ声を漏らす。

そんな春美に、双葉は容赦なく子作りを続行。

春美の脱力も、双葉を心の底から受け入れ安心している証拠なのかもしれない。

されるがままの現状はセックスというよりは双葉のオナニー。さしずめ、春美は妊娠機能付きのオナホールである。





あふさ!

あふさ!

たふさ!

たふさ!

あふさ!

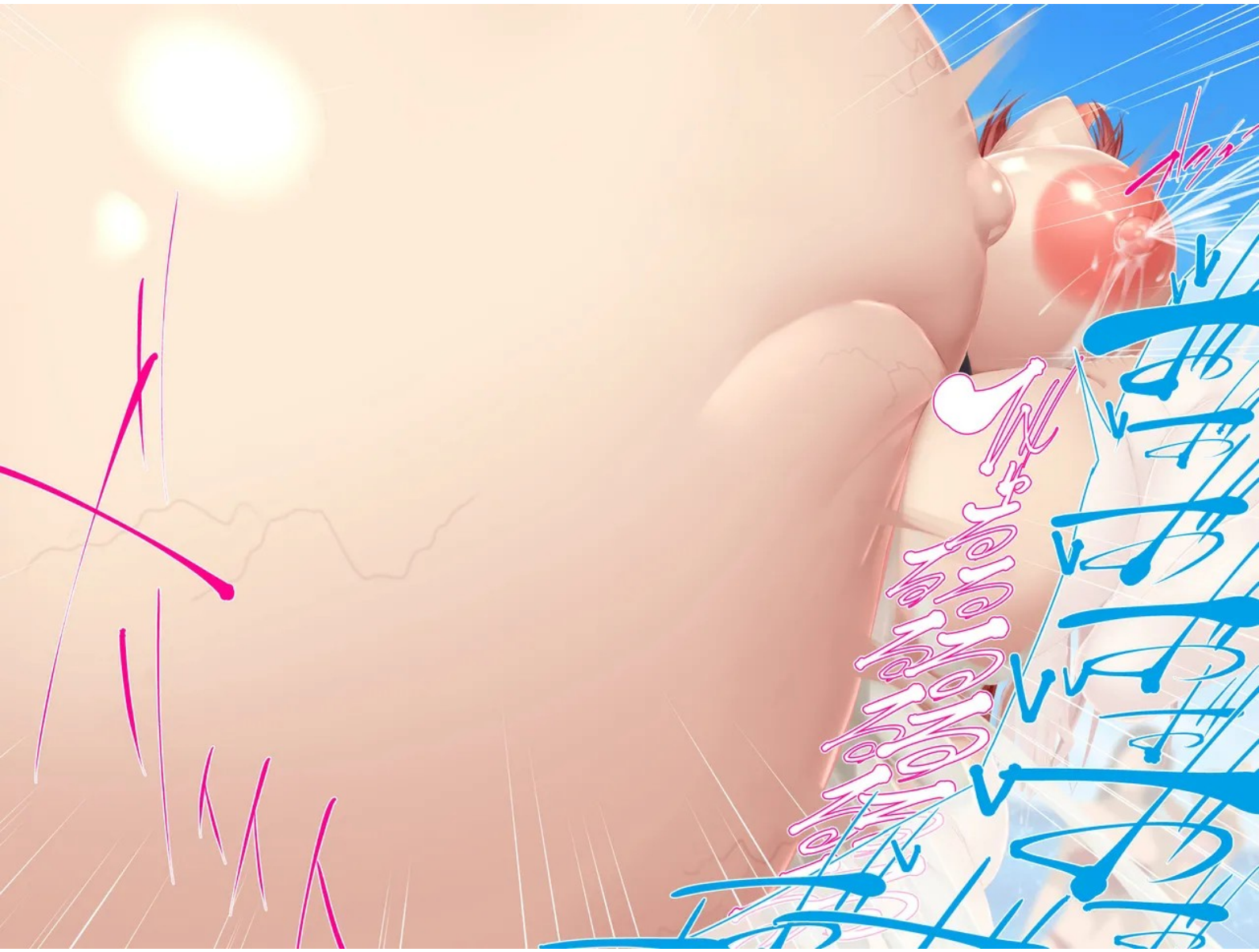
射精^だすぞおおおおッ!
春美^だいいいいっ!!

あふさ!

あふさ!











ママー あれ何ー？

んー？ なにかしう？
たぶん新車のビーチボールよ

そっかー 変なのー

キラキラ
キラキラ
キラキラ

キラキラ
キラキラ
キラキラ



周囲の視線が春美のボテ腹に向けられる。
あまりに大きなボテ腹のせいかな本物とは思われていないようだ。

それはまるでフロートのような水遊び用の浮き具。

そして、この場にあるどの浮き具よりも大きく膨らんでいた。

中身は「もう一つの海」にして精液の海。

海流のように精液が流れ、タップタップと波打ち、

魚のように精子が泳ぎ回る。

生命は海から生まれたという説、ゆえに海は「母なる海」と称される。
春美の抱える海にも生命が生れるときは近く、
やがて彼女が、母となる時も近いだろう。

